

コンペ・プロポーザル方式によってつくられた公共建築における 要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係に関する研究*

Research on the relationship between the outline, proposal, actual space, and users' awareness in public buildings created through competitions and proposals

築地 颯[†]
Hayate Tsukiji

1. はじめに

1-1. 研究の背景

近年、高度経済成長により整備されてきた公共建築が耐用年数を迎え、建て替えや改修を求められている。一方で人口減少や高齢化等からそれらが困難な現状があり、慎重な整備を求められる。そこでこれまでのような価格で建物の価値を決めるのではなく、質を枠組みにとらえるプロポーザル方式や設計コンペ方式における整備が急がれる。

1-2. 本研究の目的

本研究ではコンペ・プロポーザル方式の要綱・提案書で計画された内容と実空間における利用者意識から、それぞれの関係性を示し、設計競技・プロポーザル方式の成果について明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象と研究概要

新建築データの「1975年1月号～2024年4月号」に掲載されている建築から、プロポーザル・コンペによって実現した、延べ床面積5000㎡以下の交流施設を対象とした。さらに上記に該当した31事例から、延べ床面積が500～3000㎡で、用途が複合しておらず、要綱、技術提案書の入手が出来た4事例を対象とした。

4事例の要綱について、KJ法によって抽出した11項目のキーワード（要綱kw）から、技術提案、実空間、利用者意識について調査を行い関係性について分析を行った。

3. 要綱、技術提案書、実空間の関係性

4事例における11項目の要綱kwと提案書、実空間について整理し、要綱記述に対する達成数の割合についてまとめた（表1）。共通点として「3. 交流」に関する記述が多く見られ、割合としても高くなっていた。また、「6. 持続可能性」についても共通して記述が多く、割合として高くなっていた。一方で「10. 形態」に関する記述は最大200%とあまり見られなかった。相違点として、A. 逢妻交流館は「9. 安全性」に関する記述が0%と見られず、B. 多賀町中央公民館では「5. 地域特性」に関する記述が合計21個と多く、割合としても同様に高くなっていた。C. くるるでは「2. 拠点：まちづくり」に関する記述が4個と多く見られる。D. 土生は「7. 機能性・合理性」に関する記述が8個と多く見られた。

総合的に見ると、これらの交流施設は、地域のつながりや持続可能な社会の実現を目指している一方で、建物の安全性や形態に関する記述が少ない傾向が見られた。

4. 要綱と利用者意識の関係性

11項目についてそう思う・ややそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・思わないの5段階で質問をし、

その理由について記述してもらった（図1）。B. 多賀町中央公民館では肯定的意見（そう思う・ややそう思う）が50%を下回っている項目は「2-d. 人材育成」のみとなった。また、肯定的意見が80%を超えている項目として「1-b. 気軽さ」、「5. 地域特性」が挙げた。

利用者の記述について、4事例の共通点として「1. 逢妻・気軽さ」「2. 拠点」に関する肯定的意見が46ptと強く見られた。各事例の特徴として、A. 逢妻では「6. 持続可能性」「7. 機能性・合理性」「9. 安全・災害」で-1ptとなり否定的意見のほうが強く見られた。B. 多賀では、否定的意見が強い項目は「9. 安全・災害」のみ見られた。C. くるるでは、「5. 地域特性」「6. 持続可能性」「9. 安全・災害」「10. 形態」で否定的意見が強く見られた。D. 土生

表1. 各事例における実現数と要綱kwに対する実現数の割合

		A. 逢妻			B. 多賀			C. くるる			D. 土生			平均
		要綱 kw数	実現 数	割合	要綱 kw数	実現 数	割合	要綱 kw数	実現 数	割合	要綱 kw数	実現 数	割合	
1. 逢妻・ 気軽さ	愛着	1	2	200+600 2	1	3	300+600 2	1	3	300+100 2	1	1	100+200 2	300%
	気軽さ	0	3	400%	1	6	450%	2	2	200%	0	1	150%	
2. 拠点	学習	1	1	100+50+ 100+0	2	1	50+300+ 200+0	0	0	0+200+ 200+100	0	0	0+400+ 0+0	106%
	まち	2	1	4	1	3	4	2	4	4	0	2	4	
	子育て	1	1	"	1	2	"	0	1	"	0	0	"	
	人材	0	0	63%	0	0	138%	1	1	125%	0	0	100%	
3. 交流		1	9	900%	2	10	500%	1	12	1200%	0	7	1400%	1000%
4. UD・ID		1	2	200%	1	3	300%	1	1	100%	0	1	200%	200%
5. 地域特 性	景観風土	1	4	800+100 2	1	16	1600+168 2	1	2	200+200 2	1	2	200+200 2	383%
	地域資源	1	1	250%	3	5	883%	0	1	200%	0	1	200%	
6. 持続可 能性	環境性能	0	2	400%	1	4	400%	0	1	200%	0	4	800%	450%
	省エネ	1	1	100%	2	2	100%	1	1	100%	1	1	100%	
7. 機能性・合理性		2	1	50%	2	13	650%	0	4	400%	1	8	800%	475%
8. 耐用性・コスト														
9. 安全・ 災害	安全性	1	0	0+0 2	1	6	600+250 2	0	0	0+50 2	0	0	0+100 2	125%
	災害	1	0	0%	2	5	425%	2	1	25%	1	1	50%	
10. 形態		1	0	0%	1	2	200%	0	0	0%	0	2	200%	100%
11. 数地活用		0	2	400%	0	4	400%	1	2	200%	3	5	167%	292%

表2. 意見数の集計結果

	D. 土生			B. 多賀			C. くるる			D. 土生			平均
	○	△	合計	○	△	合計	○	△	合計	○	△	合計	
1. 愛着・気軽さ	151	-1	150	138	-2	136	120	-3	117	151	-1	150	138.3
2. 拠点	99	-7	92	93.5	-6	87.5	76	-12	64	99	-7	92	83.9
3. 交流	111	-8	103	121	-3	118	93	-4	89	111	-8	103	103.3
4. UD・ID	104	-10	94	122	-2	120	78	-17	61	104	-10	94	92.3
5. 地域特性	100	-7	93	133	-3	130	58	-30	28	100	-7	93	86.0
6. 持続可能性	133	-4	129	121	-6	115	61	-33	28	133	-4	129	100.3
7. 機能性・合理性	95	-8	87	110	-8	102	69	-26	43	95	-8	87	79.8
9. 安全・災害	111	-7	104	98	-5	93	58	-36	22	111	-7	104	80.8
10. 形態	98	-14	84	115	-5	110	64	-33	31	98	-14	84	77.3
11. 数地活用	112	-6	106	113	-5	108	73	-26	47	112	-6	106	91.8

計算方法 そう思う：2pt ややそう思う：1pt どちらでもない・未回答0pt
そう思わない：-2pt あまりそう思わない：-1pt

* 2024年度修士論文梗概

[†] 静岡理科大学大学院 理工学研究科 システム工学専攻

各事例について整理を行った（図2）。

利用者の記述として、利用者意識が高く、達成数の割合も高い「3. 交流」について関係図を作成した(図3)。

4 事例共通として、他者の活動が見えて共有されることで自分も交流しやすくなるという意識が見られた。技術提案書、実空間ではA. 逢妻の全面ガラスによる活動の共有や、B. 多賀、C. くるるの開放的なエントランスホール、D. 土生のエントランスや屋外にまで開かれた大ホールにおいて「3. 交流」の技術提案がなされていたが、利用者意識

図 1. 多賀町中央公民館における項目別利用者意識

6. 総括

設計提案の割合として共通して「3. 交流」について重視した提案がなされており、利用者意識としても肯定的意見が高く、関係性が明らかとなった。一方で、達成数の割合が低い項目は意識も低くなっており、B. 多賀のような全体のバランスを保った提案が求められる。設計 kw の達成が少ない項目については、肯定的利用者意識も割合が低くなることも明らかとなり、要綱における記述内容の吟味と設計提案における明確な審査が必要である。また、C くるるでは、審査過程に対して懐疑的な意見が見られたことから、設計者が竣工後のマネジメントへ関与することや、審査員が利用実態について改めて評価を行う必要があると考えられる。

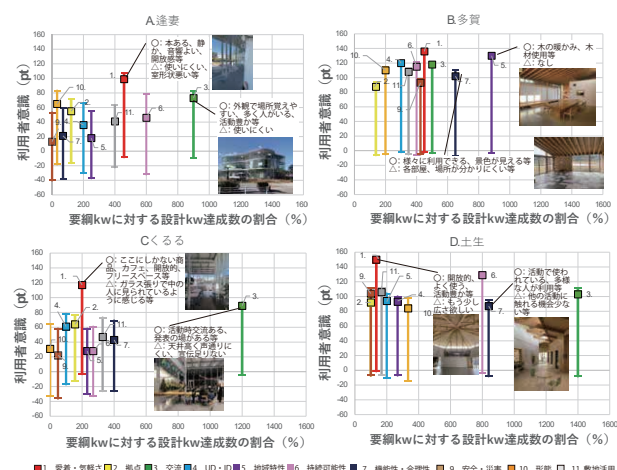


図 2. 各事例における利用者意識と設計 kw 達成数の割合

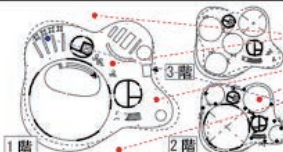
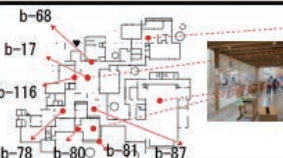
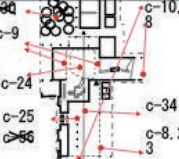
	項目	要綱 kw	設計 kw	技術提案書 平面イメージ		設計図書		実空間	利用者意識
				全体	部分	全体	部分		
A. 逢妻	3. 交流	A-5	a-1, 3, 6, 7, 9, 10, 12, 20, 22	a-1, 3, 6, 7, 9, 10, 12, 20, 22				○: 人が集まる・ママ友出来た・多くの人集まる・駐車場出入りしやすい・子供利用 (全) 机あり話しやすい、外観で場所覚えやすい、多くの人がいる、活動量×3 △: 使いにくい(全) 使いにくい	
B. 多賀	3. 交流	B-7, 8	b-2, 15, 17, 40, 68, 78, 80, 81, 87, 116	b-2, 15, 40				○: 声よくかけてもらう・集まりやすい、フリースペース・同じ子育てで中観子に会える・客席で交流できる (全) ガラス張り、広々×2	
C. くるる	3. 交流	C-2	c-1, 4, 7, 8, 9, 10, 23, 24, 25, 28, 34, 35	c-1, 4, 7, 35				○: 活動時交流ある×3、共有できる、机や椅子多い・発表の場・発表の場・活動時交流ある (全) 人の声ある、様々な部屋ある、活動量×2 △: 天井高く声通りにくい、宣伝足りない	
D. 土生	3. 交流		d-1, 2, 4, 6, 8, 35	d-1, 2, 6, 4, 35				○: 活動量 (全) 多くの利用者集まる×2	

図 3. 各事例における要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係性